

令和2年(2020年)8月8日(土曜日)

梅花藻の里 土砂除去

道路舗装工事で流入市に「配慮を」

GW三島

三島市が6日に実施した道路の舗装工事で隣接する三島梅花藻の里へ泥水が流入し、管理するNPO法人グラウンドワーク(GW)三島が7日、土砂の除去作業に追われた。水中で白い花を咲かせるミシマバイカモは県の絶滅危惧種に指定され、GW三島は「放っておけば枯れてしまう。もう少し配慮してほしい」と訴える。



市によると今年は長雨により地下水が増加し、道路の掘削で出た土砂が水とともに梅花藻の里へ流入したとみられる。GW三島の指摘を受けた市は水の流れを変えるなど対応したが、既に入り込んだ土砂は池の底に堆積。ミシマバイカモに付着した土砂を放置

ミシマバイカモに付着した土砂を除去する関係者＝三島市の三島梅花藻の里

すれば酸素不足で枯れる可能性もあるという。GW三島は、ほうきでミシマバイカモに付いたヘドロを少しずつ落としましたが、完全な除去にはまだ時間がかかる見通し。渡辺豊博専務理事は「舗装工事が悪いとは言わないが、事前に相談すべき。枯れば取り返しがつかない」と話した。

(三島支局・金野真仁)